

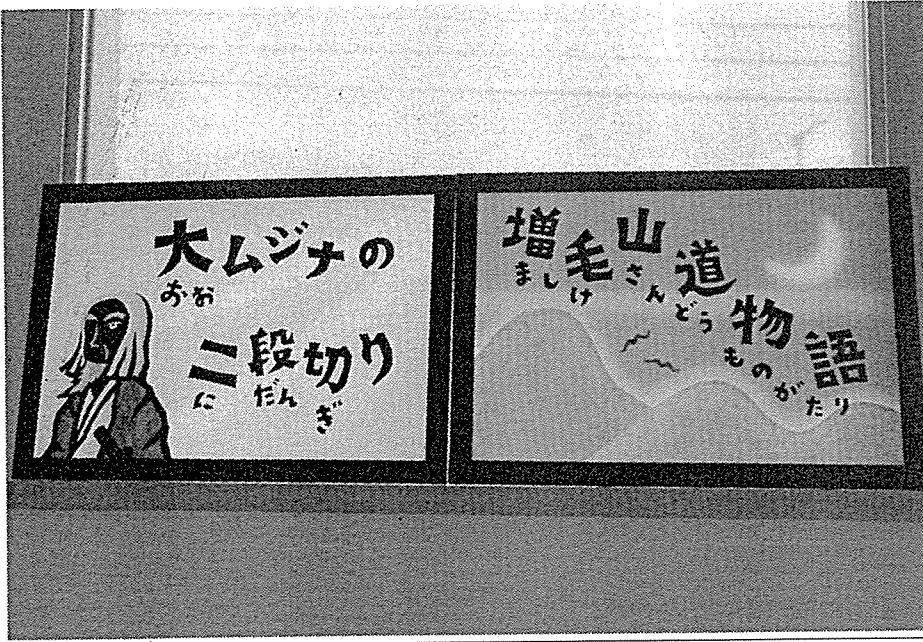
2014年(平成26年)8月24日(日曜日)

影絵紙芝居2話が完成

増毛の民話伝承会 9月15日にお披露目

【増毛】民話の普及に努めている増毛の民話伝承会(小田敏会長)はこのほど、影絵紙芝居2話を制作した。9月15日午後1時半から町総合交

流促進施設元陣屋で行う公演でお披露目する。増毛の民話伝承会が制作した影絵紙芝居の新作



平成22年度、増毛を題材にした民話の普及に努めよう」と町民6人と事務局の町教育委員会職員で伝承会を発足。現在は会員9人で活動し、これまでに「延命地藏の話」、「たからもの九平さん」など9話を制作している。

今回は、町が今年度予算に計上した紙芝居制作委託料約75万円を活用。これまで同様、神奈川県在住の影絵作家浜崎ゆう子さんに影絵紙芝居の制作を依頼。3月から事務局の町教委が、浜崎さんに写真や資料を送るなど連絡を取りながら作業を続けていた。

今回制作したのは、増毛町別荘と石狩市浜益区幌を結ぶ増毛山道を舞台に、行商の余之介と大男が登場する「増毛山道物語」、明治時代に実在し

たと言われる医者石井織之介が主役の「大ムジナの二段切り」の2話。「大ムジナの二段切り」に登場する石井織之介は、今でも別荘に墓があるとされている。町教委では「今回制作した2話は、いずれも今までなかった怖い話。別荘には多くの民話が残っているが、増毛山道が舞台の話を作ってみたい」と思っていた。増毛にはこんな人がいたんだと知ってもらえればと思うので、多くの人に

に見に来てほしい」と呼び掛けている。(寺本大輔)